

### がん検診受診促進事業

#### ◆がん検診受診キャンペーン

##### ◇ピンクリボン運動等の実施【継】

メディアや関係団体と協働して、広域的な普及啓発を行う。

##### ◇大腸がんウォーキングイベントの実施【新】

関係団体と協働し、大腸がん検診に関する普及啓発キャンペーンを実施する。

##### ◇フリーペーパーを活用した普及啓発【新】

主に子宮がんについて、関心を持たない層に対して情報を発信する。

##### ◇5 がん検診普及啓発パンフレット【新】

がん検診受診率が低下する 60 歳代を対象としたがん検診普及啓発パンフレットを作成する。

##### ◇区市町村におけるがん検診普及啓発の支援【継】(\*医療保健政策区市町村包括補助)

#### ◆がん検診受診率向上事業【新】

医療保健政策区市町村包括補助事業を活用し、がん検診受診率向上施策に積極的に取り組む区市町村と連携して、有効な受診率向上施策を策定する。

### 検診実施体制の整備

#### ◆がん検診精度向上支援事業

##### ◇がん検診精度管理評価事業【継】

区市町村が実施する検診の精度管理方法等について助言する。

##### ◇検診受託機関講習会【新】

区市町村のがん検診を受託する検診機関に対して実施指針を基にした講習会を開催し、統一的に精度の高い検診体制を整備する。

#### ◆乳がん検診機器整備事業【継】

乳がん検診の実施体制を整備するため、区市町村及び職域の検診を実施する検診機関等に対してマンモグラフィ検診機器の整備補助を実施する。

#### ◆読影医師等養成研修【継】

マンモグラフィによる乳がん検診に従事する医師や診療放射線技師の読影・撮影能力等の向上を図り、乳がん検診体制の整備を図る。(読影研修 2 回、技術研修 2 回)

#### ◆職域がん検診支援事業【新】

効果的な取組を行っている企業を把握し、職域と連携し、企業への普及啓発を行う。

\* 医療保健政策区市町村包括補助 (地域の実情に応じた事業促進のための区市町村への補助)

【先駆的事業】 補助率 10/10

【選択事業】 補助率 1/2

# 平成21年度ピンクリボンイベントの効果検証

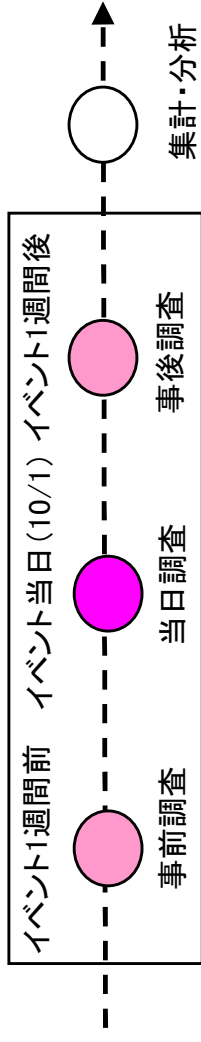
## 背景・目的

- 東京都では、乳がん検診受診率向上のため、平成18年度から、毎年10月1日に都民広場でのイベント「ピンクリボンin東京」を実施している。
- 今後のより効果的な事業実施のために活用することを目的に、「ピンクリボンin東京2009」におけるイベント参加者の行動変容と、周辺地域での意識変化等について調査・分析を行った。

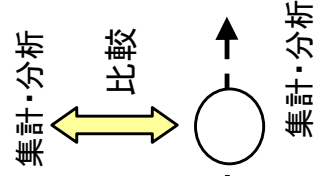
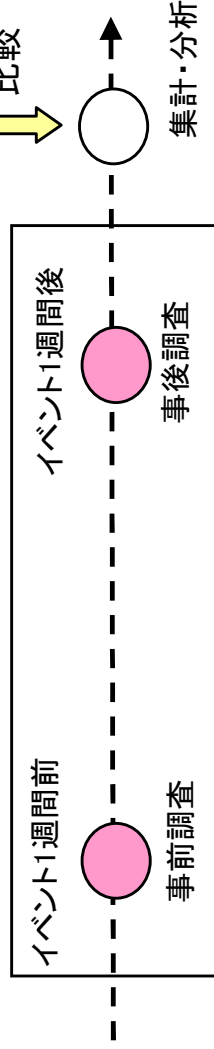
## 調査の概要

- 調査時期と対象者
  - ① 当日（10月1日）  
対象：イベント参加者
  - ② イベント前後1週間（事前9月24日、事後10月8日）  
対象：イベント開催地域周辺地域（都庁周辺）、対照地域（汐留付近）を通行する女性
- 調査方法  
無記名自記式質問表による街頭調査
- 調査項目
  - ① 基本属性（性別、年代、居住地域、受診状況）
  - ② ピンクリボン運動の認知
  - ③ 乳がん検診に対する意識
  - ④ 乳がん検診への準備性（1 無関心期～5 定期受診の5段階）
  - ⑤ 【当日調査のみ】  
イベント参加方法、イベント参加歴、イベントに参加して知ったこと、ポストカードの利用方法

### 【都民広場周辺（介入地域）】



### 【汐留付近（対照地域）】



## 結果

- 1 回答者の基本属性
 

年齢	事前調査 (n=173)	イベント当日 (n=363)	事後調査 (n=211)
19歳以下	1.7%	1.7%	1.4%
20～29歳	22.5%	9.3%	17.5%
30～39歳	19.7%	17.3%	24.2%
40～49歳	13.9%	22.9%	20.9%
50～59歳	15.6%	19.3%	14.2%
60～69歳	22.0%	20.4%	17.1%
70歳以上	4.6%	9.1%	4.7%
性別			
女性	100.0%	83.4%	100.0%
男性	0.0%	16.6%	0.0%
居住地			
東京都	72.8%	82.8%	72.5%
東京都以外	26.6%	17.2%	27.5%
- 2 効果検証結果（概要）
  - ① ピンクリボン運動の認知度
    - ・ イベント参加者で92.9%、事前調査・事後調査対象者のいずれも85%以上であった。
  - ② 乳がん検診に対する意識
    - A 乳がんについて、自分自身の問題として捉える人の割合（「誰もがかかると可能性がある」「私もいつかかかるかもしれない」と考える人の割合）
    - ・ イベント参加者では、事前調査・事後調査対象者と比較して有意に高かった。
    - イ 乳がん検診について、誤った認識を持つ人の割合（「早期発見できなくても手術で治せる」「セルフチェックしていれば検診不要」と考える人の割合）
    - ・ イベント参加者では、事前調査・事後調査対象者と比較して高かった。
  - ③ 乳がん検診の準備性
    - ・ イベント参加者（3.57）、事後調査対象者（3.35）の順で準備性が高かった。
    - ・ イベント参加者（3.77）、事後調査対象者（3.57）の順で準備性が有意に高かった。

## 考察

- 1 ピンクリボン運動の認知度は、これまでの調査と比較して高く、周知が進んでいると考えられる。
- 2 イベント参加者は、乳がんについて自分自身の問題として捉えるなど、乳がん検診に対する意識が高い人が多く、乳がん検診の準備性も高い傾向にあった。「自分が乳がんになるかもしれない」という意識を高めることで、受診行動に結びつく可能性が示唆された。
- 3 イベント参加者は、認知度や意識、検診準備性が高い集団であるにも関わらず、乳がん検診について誤った認識を持つ人の割合が高く、認知度や意識の高さが、必ずしも正しい知識と結びついていない状況が見られた。

### 【今後乳がん検診受診率向上対策として必要な取組（例）】

- ◆ ピンクリボン運動を認知しているだけの人を、イベント参加、さらに受診行動に結びつける促進要因について調査を行う。
- ◆ 「乳がんは自分もかかるかもしれない」というメッセージを都民に効果的に伝えることで、受診行動に結びつける取組を実施する。
- ◆ イベント開催時に、乳がん検診についての正しい知識を定着させる取組を実施する。
- ◆ 乳がん検診の準備性を高める要因について、より詳細な検討を実施する。

## 東京健康ウォーク 実績報告

## 目的

大腸がんを早期に発見し治療につなげるために、大腸がん検診の受診促進に資することを目的として、大腸がんに関する知識を楽しく学べる参加体験型ウォーキングイベントを開催した。

## 事業内容

【開催日】平成 21 年 11 月 1 日（日曜日）

【会場】東京国際フォーラム

【イベント内容】

- ウォーキング（10Km もしくは 5Km の距離をそれぞれ 2 コース設定）
- ステージプログラム（医師とゲストアスリートによるトークショー等）

【参加条件】東京都在住・在勤・在学のいずれかに該当する方

【募集人数】先着 2000 名

## 実績報告

【参加人数】

	事前申込者数	ウォーキング参加者数		
		事前申込	当日申込	計
10kmコース①	600	525	40	565
10kmコース②	600	500	27	527
5kmコース①	531	437	29	466
5kmコース②	135	116	22	138
計	1,866	1,578	118	1,696

【参加者属性】※アンケート結果（1497 名）より

- 男女比：男性 44%、女性 55%
- 年代：40 歳代の割合が 23%と最も多く、次いで 50 歳代（21%）、30 歳代（20%）、60 歳代（18%）であった。
- 居住地：無回答者を除くと、東京都在住が 78%であった。東京都在住者の 69%が 23 区内に在住していた。
- 大腸がん検診の受診歴：ほぼ毎年検診を受けている方の割合が多く、全体で約 50%を占めていた。「何度か受けたことがある」（28%）「受けたことがない」（15%）であった。

【無料大腸がん検診実施結果】

		受診者数	受診結果			
			異常なし	要精検	要再検	判定保留
男	人数	256	237	19	0	0
	%		92.58%	7.42%	0%	0%
女	人数	382	355	26	0	1
	%		92.93%	6.81%	0%	0.26%
合計	人数	638	592	45	0	1
	%		92.79%	7.05%	0%	0.16%

※申込者数 923 名

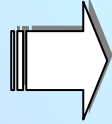
# 女性の健康週間における普及啓発事業について

## 女性の健康週間とは

- ◆平成19年4月に策定された「新健康フロンティア戦略」において、「女性の健康力」が柱の一つに位置づけられた。
- ◆厚生労働省では、女性の健康を支援するため、毎年3月1日から3月8日までを「女性の健康週間」と定め、国民運動として展開することを目指している。

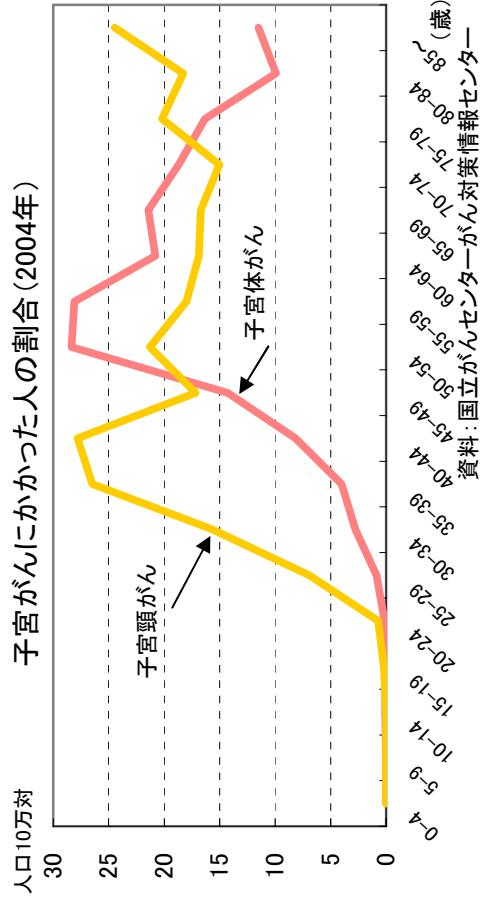
## 女性の健康課題

- ◆近年、子宮頸がんは20～30代の罹患が増えており、健康や検診に対する意識の低い世代に向けた普及啓発が必要である。



女性の健康週間の機会を活用し、若い世代を中心に、子宮がん検診に関する普及啓発活動を行う。

子宮がんにかかった人の割合(2004年)



## 実施内容

- ◆普及啓発媒体の関係機関等への配布

### 【活用媒体】

- ◇子宮がん検診普及啓発ポスター
- ◇子宮がん検診普及啓発リーフレット
- ◇ジェイヌード特集記事
- ◇乳がん・子宮がん検診普及啓発ポストカード

4種類の媒体を  
関連付けて配布

- ◆交通広告の実施

- ・都営地下鉄主要駅における駅ばりポスター及びブラック広告の活用
- ・東京メトロ駅ばりポスター

- ◆街頭キャンペーンの実施

- ・新宿駅付近でキャンペーン実施

- ◆その他: 電光掲示板による啓発、広報東京都への掲載 等

配布先	ジェイヌード (本誌)	ジェイヌード (増刷分)	ポスター	リーフレット	ポストカード
カフェ・ヨガスタジオ等	○				
都保健所・区市町村		○	○	○	○
医師会・美容院・エステ等		○			
フィットネスクラブ		○	○		
都内女子大		○	○	○	○
健康保険組合			○		
交通 広告			○		
都営地下鉄			○		
東京メトロ			○		

## がん検診受診促進事業

## ◆がん検診受診キャンペーン

## ◇大腸がん【継】

検診普及啓発キャンペーンの実施、ウォーキングイベントの開催

## ◇乳がん【継】

ピンクリボン運動の実施

## ◇子宮がん【継】

フリーペーパーを活用した普及啓発

## ◇5がん【継】

5がん検診普及啓発パンフレットの作成

## ◆がん検診受診率向上事業【継】

区市町村が実施するがん検診について、区市町村と連携して受診勧奨の取り組みの効果検証を行いながら、都における受診率向上策を検討する。

## ◆区市町村の受診率向上に関する取組への支援【継】

医療保健政策区市町村包括補助事業（地域の実情に応じた事業促進のための区市町村への補助）

〈先駆的事業〉補助率 10/10      〈選択事業〉補助率 1/2

## 検診実施体制の整備

## ◆がん検診精度向上支援事業

## ◇がん検診精度管理評価事業【継】

## ◇検診受託機関講習会【継】

## ◆マンモグラフィ機器整備【継】

区市町村や職域の検診を実施する検診機関等のマンモグラフィ機器導入費を補助

## ◆マンモグラフィ読影医師等養成研修【継】

読影研修及び技術研修：各 2 回

## ◆職域がん検診支援事業【新】

## ◇東京都がん検診推進サポーター事業

がん検診に積極的に取り組む企業を公募し「東京都がん検診推進サポーター企業」として認定、受診率向上のための普及啓発を支援する。

## ◇がん検診ハンドブックの作成

企業の経営者・健康管理者向けハンドブックを作成し、健康保険組合に配布

## がん検診対象人口率調査

## ◆がん検診対象人口率調査【新】

健康増進法に基づき行われるがん検診を効果的・効率的に推進するため、がん検診受診機会と対象となる人口を正確に把握する。